

劇団☆新感線公演 仮名絵本西遊記 巻之二「直撃転法輪大逆転篇」

1991年8月28日〜9月4日 東京サンシャイン劇場
1991年9月11日〜9月14日 大阪万国博ホール

キャスト	孫悟空	渡辺いつけい	牛頭夜叉	フランキー仲村
	猪八戒	古田新太	美候王宮の謎の男	右近健一
	沙悟浄	竹田回吾	謎の男の謎のアシスタントガール	村木よしこ
	経蔵	枯暮修	猿黒サンボ	下村ともこ
	律蔵	高田聖子	猿松	河野まこと
	論蔵	陣内かおり	美候王宮宮女	サコ
	顕聖二郎神	山本カナコ	出来とも子	仲町ゆう子
	千年人參女王	鳳ルミ	庄野ゆかり	簡井みほ
	道楽道人	羽野アキ	神谷桂子	前田まさよ
	美候王	逆木圭一郎	悟空の分身	磯野慎吾
	金角大王	粟根まこと	石田アキラ	乾藤
	銀角大王	猪上秀徳	馬頭夜叉	インディー高橋
	鉄角將軍	橋本じゅん		
	鈍角將軍	橋本さとし		

あとがき

サンシャイン劇場で公演することが決まったのが先だったか「仮名絵本西遊記1・2」再演+新作一挙上演という企画が先だったか、もう忘れてしまったが、とにかくこの公演で「商業演劇の日」という、昼の部夜の部でパート1パート2一挙上演をやっ
てしまおうということになった。

このうえとか他の連中と話してるときは、やたらに盛り上がった。
「こんなこと誰もやってないぞ、うひゃひゃひゃひゃ」というパターンだ。
新感線の行動原理としては、このパターンは非常に多い。とりあえず、勢いでやっつけてしまうところが、新感線を新感線たらしめて
いるとも思っただが、その分失敗も多い。

(例1) 「シアタートップスで宙つりやろう。こんなこと誰もやってないぞ。うひゃひゃひゃひゃ」(宇宙防衛軍「デマロV」)

(例2) 「東京の最初の公演と、リターン公演で結末の展開を変える。演劇界初のマルチシナリオシステムだ。こんなこと誰もやってないぞ。うひゃひゃひゃひゃ」(「調音師の七人」初演)

結局、日本の展開を作家が決まらなかったただけだということがわかり反省。失敗。

(例3) 「西遊記」の第一部と第二部を連続上演だ。第一部から第二部に変わる日を日曜日にして、休憩は喜んで一挙に上演しちゃえ。休
息に弁当出して、商業演劇の日。てえのはどうだ。こんなこと(以下略)

結果的に、いのうえ曰く、労多くして実り少なしという公演になってしまった。
一本は再演とは言え、二本同時の制作はやはりスタッフ・キャストに相当な負担をかけたこと。
千秋楽、ダブル発券によりかなりの数のお客さんが席がだぶってしまったというトラブル。

もっとも大きなダメージは予算の読み違いから、しゃれにならない額の借金を抱えてしまったことだろう。
これにより、しばらくの間、金のかかる、いのうえ歌舞伎は封印ということになってしまった。
脚本家として勉強になったのは、やはり連続活劇という伝奇大河ドラマというか、とにかく物語がきちんとつながった作品
を舞台でやることの難しさだ。

特にこの時は、第一部のラストシーンからそのまんま第二部が始まるというのをやりたかったので、連続性が重要になる。こ
れは実に難しい。映画や書物と違って、あらかじめおさらいというのができない。それを考えると一挙上演という手しかないの
ですね。(この辺の処理を反省しそれなりに考えたのが、スサノオのパート2「武流転生」だが、それはまた別の話)

「上位転生や、転法輪、釈迦の解釈など気に入ったアイデアは結構あるし、物語の構造も嫌いな訳じゃないんだが、舞台にあ
げるための作品としてはSF的な趣味はこの辺が限界かなあという気はした。
「仮名絵本西遊記」は個人的には「進化と宇宙論を隠し味にしたスペースオペラ」だ。

第三部では、もうその部分がかましようがなくなる。
「巻之二」の宇宙は実は巨大な瓢箪型をした世界、釈迦が作った戦闘宇宙だった。

二重螺旋の回廊を越えて真宇宙に飛び出した悟空を待っていたのは三蔵教典と同じ顔をした三人の仏であり、彼を消滅させ
ようと攻めてくる。経蔵と同じ顔をした仏と戦うことに戸惑う悟空。釈迦はこの三仏を参考にして経蔵・律蔵・論蔵の人間体を作っ
たのだ。

が、その釈迦も今は仏との戦いに敗れ因果虚空という時と因果の果てに幽閉されている。さまざまな宿業の末、釈迦解放のた
め仏軍と戦う羽目になる悟空。
一方、二重螺旋を逆に落ち輪廻をはずれたもう一匹の悟空——幻柴も、虚空の底で外道の王となり、負の因果律を解放する
ことで、真宇宙へと解放される……。

——と、こんなイメージを言えばわかってもらえるかな。アニメや小説ならともかく、舞台では絶対不可能なスケールの
物語なのです。やっついてもあんまり意味がないと思うし。

したがって、結局第三部への橋渡しの位置づけの「巻之二」は、この時限りで封印と断言することになってしまった。

1999年に青山劇場で行った「西遊記」PSY UCHICに続編がないのも、それが理由だ。
それでも作家の哀しい性で、書いた物に目をみせたいという気持ちは拭いがたいものだから、このヨムゲキシリーズで、
「巻之二」(巻之二)の同時刊行をやらせてもらった。

中島のSF趣味の世界に興味のある方はよければ「一読を」という気持ちだ。